

病院で取り組んでいる様々な事例についてご紹介します。

働き方改革の取り組み

形成外科・美容外科 橋本一郎、水口誠人

本年度から日本全国で医師の働き方改革が本格的に始まりましたが、実際には業務の削減や効率化を実践するために、どこから手をつければ良いのかわからないのが現状だと思います。そのため、当科では業務の効率化を実践指導するコンサルティング会社(A社)と一緒に、業務の効率化と時間短縮に取り組むことにしました。

令和5年9月から脳神経外科の高木教授と医局員そして形成外科でA社の指導のもとに2時間のワークショップを合計3回行いました。この中で、効率化すべき業務の抽出と効率化のための具体的な方法を検討しました。この作業は思った以上に難しいものでしたが、プロのコンサルタントにファシリテーターとなってもらうことで作業はどんどん進みました。医局員がそれぞれの考えをボードに貼り、全員で話し合いを繰り返すことで最初に取り組むべき業務とそのアプローチ方法が明確になっていきます。3回のワークショップが終了後に、形成外科では業務効率化のためのカンファレンスを若手医師が中心となって毎月1回医局内で開催しています。

当科では特に火曜日に抄読会、外来診察、教授回診、術前術後カンファレンスが集中しており、時間外業務の常態化が続いていました。そこで病棟当番制の導入、タブレット端末による回診業務の効率化、外来業務の一部タスクシフトといったさまざまな措置を加えることで、ほぼ就業時間内に完了できるようになりました。有給休暇取得の促進や手術記録の電子化といった次の課題にも取り組んでいます。

業務の効率化により身体的・精神的ストレスが緩和され、診療中にも高いパフォーマンスを維持できます。また空いた時間は研究、論文執筆といった自己研鑽に充てることができます。医局員全員が医療の質を落とすたくないと考えていることは重要で、医療以外の業務を効率化することにより、医療の質の向上が感じられるようになりました。

医学生や初期研修医から「ここで働きたい、成長したい！」と思われるような労働環境は、病院や医局にとって大きな魅力です。皆さんの部署でも働き方改革への取り組みを是非はじめてみませんか。



写真：形成外科と脳神経外科の合同ワークショップ

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係 (bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp) までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



西良副病院長(診療担当)に、趣味について寄稿いただきました。

趣味について

副病院長(診療担当)の西良浩一です。整形外科でスポーツ医学を専門としております。従いまして、趣味は筋トレです。実は忙しさにかまけて、ここ30年はトレーニングしておりませんでした。昨年60歳を迎えたのをきっかけに心機一転、週1時間はトレーニング時間を取るようになりました。基本はエニタイムです。出張に行ってもトレーニングができるからです。しかしながら、間違ったトレーニングでは筋肉がつきません。時々、パーソナルをお願いしております。写真は、パーソナルトレーニング中です。ルーマニアン・デッドリフトをしているところです。膝を伸ばしたまま行うので、ハムストリングスへの負荷は最大です。

たった週1回1時間ですが確実に肉体改造は進んでいます。昨年始めた時はベンチプレスも30kgがとても重く思いましたが、今では60kgを挙上しております。近々、自分の体重を持ち上げるようになりそうです。また、思わぬ副産物がありました。それは、ゴルフでのドライバーの飛距離です。トレーニング前は200Yが精一杯でしたが、トレーニング後240Y飛ぶようになりました。還暦を過ぎても飛距離アップと、友人たちが驚いております。筋肉は裏切りません！！

一年前、体重67.5kg/体脂肪22.5%/筋肉量48kgでした。それが体重64.5kg/体脂肪18.5%/筋肉量50kgに変化しました。夢はBest Body Japan還暦レジェンド部門優勝です。還暦過ぎても、色んなことにチャレンジしております。継続は力なり、皆様も何かに取り組んでください。

副病院長(診療担当)
西良 浩一



病院 NEWS

徳島大学病院新人情報交換会を開催しました！

令和6年7月3日、JRホテルクレメント徳島において徳島大学病院新人情報交換会が開催されました。約200人の参加があり、指導医師、研修医、看護師等が職種を越えて交流を深めました。



	出席者	
	新人	指導者
医師	7	23
歯科医師	13	8
看護部	30	73
薬剤部	3	3
医療技術部	7	6
栄養部	2	1
事務部	8	12
合計	70	126

写真：徳島大学病院新人情報交換会の様子

口腔管理センター
特任助教 俵宏彰



令和6年4月より口腔管理センターに配属となりました、俵宏彰と申します。私は学部生、研修医、大学院を徳島大学で過ごし、徳島が人生で一番長く住んでいる場所となりました。口腔管理センターは主に、手術、化学療法、放射線治療目的の入院患者さんに対して、口腔ケアや応急処置を行っております。誤嚥性肺炎などの合併症予防や患者の療養生活の質の向上と早期離床・早期退院に貢献することを目的とし、様々な診療科の患者さんが少しでも円滑に治療を受けられるようなサポートをできればと考えております。

今年の2月に第1子が生まれ、リフレッシュを兼ねて休日は家族で出かけるようにしております。この3月に大学院を卒業したばかりで、まだまだ至らない点が多くあるかと存じますが、今後ともよろしくお願いいたします。

心臓血管外科
医員 瀧亮祐



今年度より徳島大学心臓血管外科に入局いたしました、瀧亮祐と申します。徳島県鳴門市出身です。大学生の時から漠然と外科医として働きたいと考えていましたが、外科医を志した一番の理由は学生時代の手術見学で、「手術が上手い人ほど、簡単そうに手術をする」という外科医師の言葉に感銘を受けたからです。

初期臨床研修では心臓血管外科をローテートした際に大動脈弁狭窄症の患者様の心雑音が大動脈弁置換術後には綺麗に聴取しなくなっていたことに感動したことが決め手となり、徳島大学心臓血管外科に入局しました。今年から徳島大学病院で後期研修医として働かせていただいています。

まだまだ医師として未熟者であり、先生方にご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、外科医として一から学んでいく所存です。今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

脳神経外科
医員 松崎慶仁



令和6年4月より脳神経外科に入局致しました松崎慶仁と申します。学生時代、初期研修医時代も徳島大学病院で過ごして遂に専攻医になりました。多様な脳神経外科疾患と日々格闘しながら研鑽を積んでおります。脳神経外科を選んだ理由はマイクロサージャリーや血管内治療のように手術のバリエーションが多いことなどありますが、一番は「脳神経外科=カッコいい」というイメージかもしれません。

休日は友人と食事をしたり、ドライブやサッカーの観戦に行ったりしますが、家でひたすら寝てることが多いです。

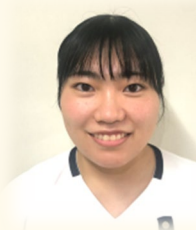
初期研修も当院で過ごしたこともあり、他の診療科や医療スタッフにも知り合いが多く、多忙ではありますが、毎日楽しく業務に励んでおります。分からないことばかりですが、今後ともよろしくお願いいたします。

超音波センター
臨床検査技師 野村侑香



令和6年4月より、医療技術部に臨床検査技師として入職いたしました、野村侑香と申します。昨年度までは大学院生として、臨床研究と心臓エコー検査をご指導していただいております。現在私は、超音波センターで、尊敬する先輩や頼もしい後輩の皆さんと一緒に、恵まれた環境の中で、エコー検査を担当させていただいております。心臓エコー検査の魅力ポイントは低侵襲でありながら、プローブを当てることで、心不全や弁膜症など、心臓の機能がわかることです。最近では、歯科医師の先生のご指導のもと、頸部リンパ節のエコー検査をさせていただいたり、心臓の弁膜症手術ではエコーを頼りに手術が進んでいくことを学び、改めて、エコー検査の深さに感心しています。まだまだ未熟ではありますが、患者さんに安心してエコー検査を受けていただけるよう、また、治療につながる結果が提供できるよう、丁寧に精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

東病棟5階
看護師 岩崎鈴々



令和6年4月に入職し、東病棟5階へ配属となりました岩崎鈴々と申します。

東病棟5階は、脳神経外科、腎臓内科、脳神経内科の3診療科の病棟です。主には脳血管障害や脳腫瘍等により日常生活に支障をきたした患者さんの日常生活援助を通して、機能回復へ向けた看護を実践しています。意識障害等により意思疎通が困難な患者さんのわずかな変化に気づくことやアセスメントすることの難しさを感じています。しかし、少しずつでも回復していく姿に触れるととてもやりがいを感じます。

休日は、小さい頃から続けているバレーボールで体を動かしたり、家でゆっくりしたりとリフレッシュして次の勤務も頑張れるように休日を満喫しています。

先輩のご指導のもと患者さんにご家族に寄り添い、より良い看護を提供できるよう精一杯頑張っておりますのでよろしくお願いいたします。